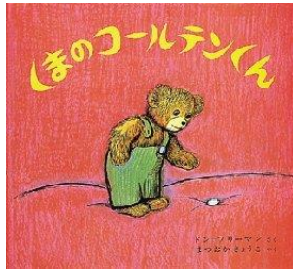


平成29年度「ANNE」ブッククラブ絵本リスト 4才～5才



おもちゃ売場のくまの人形を一目で好きになり、自分の貯金をはたいて買いに行く女の子と人形との心のふれあいを描く。

借成社



いつもおながべここの、11ぴきののらねこがいました。ある日、ひげの長いじいさんねこがやってきて、山のずっと向こうの湖に怪物みたいに大きな魚が住んでいる、勇気があるなら行ってごらん、と言いました。



子どもがいつか必ず経験する、はじめてのおつかい。ひとりのおかあさんが、子どもの体験をもとにつくったお話を、さわやかな絵本にしあげました。

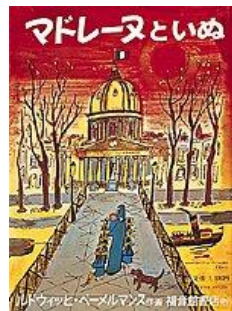
福音館

豆消防自動車じぶたは小さなためにあまりみんなから相手にされません。ところがある日……。スピード感あふれる文と絵で子どもたちに人気のある乗物絵本。福音館書店



「あらわれでたのは、くろマントに、くろいぼうしのさんにくぐみ。それはそれはこわーい、どろぼうさまのおでかけだ。」お話の始まりは、こんな文章で始まります。

借



みんなと散歩に出たマドレーヌは、いたずらが過ぎてセーヌ川へどぼん！ そのとき1匹の犬が……。アメリカ最高の絵本賞、コールドコット賞受賞の絵本。

福音館書店



仲間の野ねずみが、冬に備えて食料を貯えている夏の午後、フレデリックだけは何もせず、ぼんやり過ごしておりました。寒い冬がきて、フレデリックは……

好学社



幼稚園や保育園って子どもにとってどんな存在でしょう。大好きな子もいれば、大嫌いな子もいるはず。元気いっぱい遊んだり、とっても恥ずかしがり屋さんでうまくおしゃべりできなくて……

福音館書店

遊ぶ友だちがみつからないかたは、お宮でへんてこなおばけたちと出会って愉快地遊びますが……。躍動することばと絵が子どもたちを存分に楽しませてくれるファンタジーの絵本。

福音館書店



小さな機関車ちゅうちゅうは、ある日かってに逃げだして事件をおこします。子どもの冒険心にぴったり合った物語の展開と、ダイナミックに描かれた機関車が子どもの心をとらえます。

福音館書店

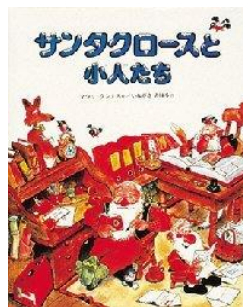


おんどのフランツとねずみのジョニーとぶたのヴァルデマールは大の仲よし。自転車朝の散歩に出発！池でボートにのったり、さくらんぼを食べたり……。何でも話しあい、助けあう。だって友だちだもの、あたりまえ！



パパが忙しくて夏休みに旅行に行けないトミーはご近所から鉢植えをあげるアルバイトを始め、家中を鉢植えだらけにしてしまいます。

ペンギン社



北欧の村で、大勢の小人たちと一緒に生活し、プレゼント作りに励むサンタの一年間を楽しく描写。

借成社

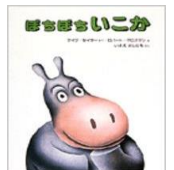


ラチは気の弱い男の子。犬を見ると逃げ出すし、暗い部屋には怖くて入ることができません。おまけに友だちからも仲間はずれにされてしまいます。

福音館書店

重量級のカバ君は、船乗り、飛行士、ピアニストと、次々に新しい仕事に挑戦しますが……。おかしな結末をユーモラスな絵で語ります。

借成社



平成29年度「ANNE」ブッククラブ絵本リスト 5才～6才



初めて空を飛んだ日、こすずめは遠くまで飛びすぎてしまいました……。物語の展開につれて高まる緊迫感と結末の見事さが、子どもたちの心をとらえます。福音館書店

村のおばさんのバケツから、ぴしゃんとしずくは旅にでました……。一滴の水の出会う冒険の旅を、シンプルなフォルムと色づかいで描いたとびきりモダンで楽しい絵本。
福音館書店



ぼくはおふろが大好き。あひるのプッカをつれてはいると、かめやペンギン、オットセイやくじらまで登場して……。子どもの空想の世界をのびのびと描いた絵本。

福音館書店



静かないなかに、ちいさいおうちがたっていました。まわりに工場ができ、にぎやかな町になるにつれて、ちいさいおうちは、白いヒナギクの花の咲きみだれるいなかの景色をなつかしく思うのでした。

岩波書店

かいじゅうたちのいるところ



モーリス・センダック さく じんぷうてゐおやく

かいじゅうの国をたずねよう。コルデコット賞を受賞し、世界中の子どもたちをひきつけてやまないセンダックの代表作。子どもの内面のドラマをみごとに描いて、今世紀最高の絵本とされています。

富山房



ジョージの新しいベッドは、小さな古いベッド。そのおんぼろベッドには「このベッドがあれば、どこへでも旅ができます」と書いてあった。ジョージがお祈りの文句を唱えると……。ほるぷ

山崎



お昼寝前にミニカーのとりっこでけんかしたさとしとあきらは、おいしいに入れられて。さあ、たいへん。現代の子どもたちの姿を生き生きととらえた、ロングセラー絵本。

童心社



有名な赤ずきんのお話を、昔話のこわさ、おもしろさをそこなわないようグリムの原作に忠実に訳しました。はなやかな色彩の新鮮な絵が、自然の美しさを語りかけ、読む者をドイツの森深ささそいこみます。

岩波書店



人間と暮らしたいと、すみかの島をひっぱって 鬼が村へやってきたが、こわがって誰も遊びません。しかたなく、鬼は隣村へいきますが？

偕成社



主人公くまのくんちゃんは元気にお母さんと学校へ行ったものの、様々な不安から教室を飛び出してしまうのです。でも先生や親の愛情に包まれ……

ペンギン社



ラルフはあくたれねこでした。もう、これでもか、というほどの。セイラがかわいがってもおかまいなし。セイラは、からかわれても、パーティーをだいなしにされても……

童話館



森のはずれに育った小さなもみの木が、ある冬の日、足の悪い男の子のもとへ運ばれます。心を打つクリスマスのお話が、美しい文と絵で、静かに力強く語られます。

福音館



うらかな春の日、ぶたの少女パールは森のなかで、魔女がおとしたほねをひろった。それは話をするふしぎなほねだった。パールはほねをバックにいれ、楽しく話をしながらかえるとちゅう……

評論社